

ライオンズクラブ国際協会
2017-2018 第1回 GAT 日本・MD コーディネーター会議抄録（案）

日時：2017年 8月 2日（水）

場所：名古屋キャッスルプラザホテル

会議時間：13:00-18:30

司会：GMT 日本エリアリーダー L.丸山 正芳

GAT 運営事務局：L.伊賀 保夫

- | | | |
|----------------|--|----------------|
| 1. 開会挨拶 | GLT 日本エリアリーダー | L.城阪 勝喜 |
| 2. 役員紹介 | GST 西日本エリアリーダー | L.中村 猛 |
| 3. 基調講演 | 元国際会長・国際理事会アポインTEE
LCIF 国際理事会執行委員会アポインTEE
LCIF 国際理事 | L.山田 實紘 |

皆さん、こんにちは。お陰様で4年間の執行役員の大任が終わりましてホッとした訳ですけれども、明日明後日はMD330、来週はシカゴ本部で1週間会議があり、終わったのか終わってないのか分からない状況ですが、執行役員も終わりましたので、いろんな裏話も含めてお話ししようかと思っております。

私が国際会長になり、100年祭というのは単にお祭りをやるだけではなくて、100年の歴史をもう一度見直して、さび付いたところはしっかり落として次の100年に向けたスタートラインだよ、ということを書いてまいりました。世界中の国でさび付いたところ、肥満になったところ、やるべきところ等、ちょうど見直さなくてはいけないということで、全世界がそう感じていたみたいです。そういう中で、国際本部のあり方も、考えを新たにしなくてはいけないのだと書いてまいりました。100年くらい前のヘレンケラーを持ち出して、視力ファーストをやり続けてちょうど1世紀経ちました。あと10年もすると、目が見えなくても車の運転ができてしまう世の中になっちゃうよ、と。どこへ行くにも車社会だから目の見えない人が不自由だ、ということが無くなるといったITの時代にもなってきますし、本当に世の中で視力だけをやっているのがいいのだろうか、という提案や疑問を国際本部に投げ掛けた訳です。国際本部からは非常に反発もあり、視力ファーストをやめたらとんでもないことになる、というようなことを言われて散々な目にあって来ましたが、私も開き直って、全世界の国や自分たちのコミュニティで何が必要なのかをアンケート取ろうと決めて、実際に50万人のメンバーにアンケートを取りました。その統計を取った中のベスト10に視力は入っていませんでした。では何が入っているのか？ ベスト5の中に出てきたのが、糖尿病予防、小児がん、環境、飢餓、青少年育成。視力は入っていませんでしたが、青少年育成はすべてのカテゴリーに関与してくるので、青少年育成の代わりに視

力が入って5つになった訳です。次の100年の第一歩として、まずは5年間、糖尿病をやろうということになりました。

糖尿病というと、日本では各市町村の健康診断や人間ドックもあるので、血糖や尿糖を計ったりするのは日常茶飯事なのですね。ですから、皆さん自身の糖尿病度合いはご存知な訳です。ただ、他の先進国、例えばアメリカですら人間ドックや国民皆保険が無いので、糖を計ったことが無い訳です。ですから、糖尿病のみならず、心筋梗塞や脳卒中になった方が、実は糖尿病が起因になっている病気に気がつかない訳です。アメリカは糖尿病の怖さを知らないのです。サイレントキラーと言うくらいで、糖尿病で死ぬのではなくて糖尿病の合併症で死んでいってしまうのです。他の後進国では足を切断した人がいっぱいいます。足が壊死した為です。既にWHOでも予防しないといけないと取り組んでいます。それくらい全世界では糖尿病が大変な病気だということを認識しているためにトップになった訳です。

小児がんは、早期発見で80%治るということもあり、青少年の中で、がんで亡くなっている人は大変だということで助けようではないかということ。これは全て命に関わることなのです。環境保全も最終的には命に関わってくる。飢餓も当然ながら食べなければ死んでしまう。私はDignity Harmony Humanityという「命の尊厳とは」というテーマでやってきました。命の尊厳は、ライオンズが一番守らなくてはいけないことではないか、ということに繋がった訳です。ですから、目が見えなくても歌やピアノが非常に上手な人がいる中で、やはりその前にあるのが命だろう、ということで、100年祭を前に方向性を変えた訳です。

我々が本当に見直さなくてはいけないのが、“We Serve”と言っている以上は、全世界で奉仕をしっかりやっているのか、もう一度見直さなくてはいけないのではないかとということで、国際会長が代わる度にテーマが変わり、そのテーマが伝わる頃には任期の半分以上が過ぎてしまっている。その頃には各地区ガバナーもご自身のこともやっちゃってしまっているということで、いつもテーマが変わるのはおかしいだろう？と提案しました。ボブ・コーリュー前国際会長は既にテーマを決められていたのでそのまま行きましたが、ナレッシュ・アガワル国際会長が同調されて、それならば“We Serve”のテーマでいく、ということになりました。第1・第2国際副会長も独自のテーマを無くしてWe Serveで行こう！ということになった訳です。

We Serveの“Serve”がある以上、もっとサービスを良くしようということ考えた中で、Global Service Teamをしっかりと動かした方が良いだろう、ということで、GSTが出来た訳です。GMTは10年目、GLTは7年目に入って、GSTが今期から始まりますが、GMTを皆さまで頑張っていたいただいたお陰で、100年祭を前に会員数は世界140万人を達成しました。今後もメンバーシップを続けなくてはいけないのですが、何故続けるのか？という方もおられます。ロータリーも100万人を切りました。ライオンズはどうして増えていくのか？世界各地でいろんな災害が発生しております。水害・日照り・地震が起きている訳です。ライオンズの良さは、現地にメンバーがいて、そこにダイレクトに本部からお金や物資を投下でき、すぐに拡散されて非常に早い時期に奉仕の手が差し伸べられる。それにはメンバーがたくさんいないと隔々まで手が差し伸べられないということで、メンバーを多くしましょう、と

というのがあります。ロータリーよりライオンズの方がメンバーが多い！と威張るのではなく、それだけライオンズが奉仕活動をするにあたり、奉仕の輪や枝葉を広げるためにメンバーを増やしていこうということです。

メンバーをただ単に多くするだけということになると、中には数だけ多くしようという方も出てくる訳です。誰でもいいから入れようということになり、ライオンズのメンバーであるというプライドや尊敬されるような立場ではないところまでメンバーシップで引っ張って入れてしまうと、質が落ちてしまう。これがいけない、ということで、リーダーシップが取れるしっかりした人を育てなくてはならない、ということで GLT が出来た訳ですね。GMT が誕生した 4 年後に GLT ができたのはそういう意味がある訳です。今 GLT が活躍いただいていることで、ライオンズは非常にリーダーシップのある人が入っており、世界で認められるようになってまいりました。質を高める GLT、自分たちの現場で多く手を差し伸べられる数を増やす GMT ということなのです。

さて、そこで自己満足のサービスではなくて、本当にコミュニティーの中で求められるサービスというのはどういうものなのかをしっかりと把握しながら与える為には GST が必要だろう、ということで今回 GST ができた訳です。ただ、サービスをやるには女性の手が非常に必要だろうと。男性の手ももちろん必要ですが、女性という非常に温かい気持ちでソフトな感じでサービスをするのも奉仕には必要な訳で、女性の活躍の場所も 50% の比率に持って行こう、ということで 4 年前から取り組んでいる中で、OSEAL と ISSAME が FWT に力を入れて非常に成功しており、FWT をどんどん伸ばしていこうとしております。他の国ではこれを GLT の中に入れてしまっている地域もあります。しかし、そういう国々は元々女性比率が 50% 以上のところが多く、OSEAL や ISSAME においては女性の比率がまだまだ低いです。日本においてはまだ 30% 強でしょうか。その比率を上げていくためには FWT に力を入れていこうということで 4 つのラインになりました。

GST で奉仕をするには、もちろん汗を流す奉仕もありますが、お金が必要となる奉仕もある訳です。それは災害もそうですし、子供の教育についてもお金が必要になってきます。どこで集めているのかというとライオンズクラブ国際協会ではお金は集めていない訳ですね。奉仕に使うお金は LCIF 国際財団がお金を集めており、この LCIF と GST というのが完全にドッキングしてカチっとかみ合わない GST がうまくいかないということで、GMT、GLT、FWT、GST という中で、特に GST、サービスの中には LCIF のコーディネーター達をそこにくっつけていきましょう、ということになった訳です。こんなところで GST ができ、そしてこれが動き出したということは皆さまご理解いただけたと思います。

LCI 国際協会の方はこれで 100 周年になった訳ですね。LCIF の方は来年 50 周年を迎える訳です。ちょうど LCI が 50 周年の時に LCIF を作ろうということで、翌年から作ったものですから、1 年遅れで LCIF がある訳です。従って、LCIF というものをしっかりと動かさなくてはならないということになりました。日本では一番古いクラブは 65 年ということになりますが、皆さんのクラブはちょうど 50 周年がようやく終わった辺りでしょうから、日本でほとんどのライオンズクラブができた時には、LCIF が既にできていた訳なので、LCI と LCIF は同じものだとお考えになっていると思います。しかし、アメリカで

は50年先にできたクラブ、すなわち100年の歴史を持っているクラブはLCIという形で来ているものですから、Foundation（基金）という存在が全然頭のないまま惰性でずっと来てしまい、もちろん頭では分かってはいるものの、例会でも何でも古い形でずっと来てしまいましたから、LCIFは別だという考え方がある訳です。特にアメリカ、ヨーロッパがそうです。OSEALはどちらかという、ライオンズクラブを作ったときには既にLCIとLCIFが両方一緒にあるものですから、これらは両輪で動いているのが当たり前に分かっている訳ですが、他の国では両輪で動いていると分かっていない、別個だと思っているのでそれがいけないということで、私が執行役員だった時に、何とかこれを両輪にしないでいいよ、ということで色々ディスカッションをしてきた中で、LCIFの理事もLCIの理事会に入りなさい、またLCIの理事もLCIFの理事会に入って、双方のリレーションシップで数人でも乗り入れして、お互いにどういう動きをしているのかということをしかりと見極めて、両方が同化して回そうということで去年からそれがスタート致しました。その第1号の理事長が私であります、今回それらのことが成立したものですから、GSTの中にLCIFのコーディネーターもGSTのコーディネーターと一緒に動きましょ、ということが決定されました。また、単一クラブの中でも、クラブ前会長がLCIFコーディネーターになったらどうかということをご提案し決定されました。日本では我々は当たり前だという風に思いますが、国際会長が終わればLCIF理事長になるということが当然のように我々は認識しているのですけれども、外国ではそうではないということがありますから、それをしかり固めた、というのが現在であります。そういうことで、“We Serve”をこれからもっと力を入れていこう、という風になった訳です。

もう一つ新しいこととして、今年から「LCI フォワード」というものが動き始めております。図で見ると丸い円周が4つに分かれていて分かりづらいかもかもしれませんが、簡単に考えれば、今までやっていたLCI国際協会のやり方というのは、一般の人には分からない秘密結社のような風に使われている節がありました。日本でも、例会で日の丸を掲げて敬礼しながら歌を歌って飲んでいる様子を何なんだろう？という風によく思われていますよね。あんなのおっかなくて入れないよという風に思っている人がたくさんいると思います。世界でもそのように思われているところがあるものですから、もっとPRしなくてはだめだよ、ということになりました。ユニセフなんかのテレビを観ますよね？ゴミの山の上に子供がいて、そのゴミの中からまだ使えるようなものをいっぱい集めて市場に持って行って、市場の片隅で泥まみれになりながらそれを売って、そのなけなしのお金で夕飯の糧にするというのを観ますね？だからこそ、「ユニセフにお金を出してください、それがこのように使われますよ」と。ああいったのを見ると我々は感動するじゃないですか。「ユニセフは良いことをやっているな」という風になる訳ですけれども、ライオンズだってそれをやっている訳です。やっているのだけれども、秘密結社のように宣伝しないものですから、全然何やっているか分からないまま、認識されないまま来ている、という訳ですね。ですから、「もっとPRにお金を掛けたらどうだ」ということになりました。「何故、今までPRにお金を掛けなかったのだろう？」ここが問題な訳です。皆さまの年会費（国際協会費）は、本当にキツキツでやっているものですから、PRに回すお金は無いのです。皆さまの事業の中でも、PRや宣伝にお金を使うのは、ある程度余裕があるから使えるのであって、キツキツでやったら宣伝に100万円200万円は掛けられません。だったら、お金の集めのために会費を上げたら良いじゃないかと、43ドルを50ドルに上げたら良いじゃないかと日本人は思うかもしれませんが、世界のライオンズの国々では豊かな国と貧乏な国では20倍くらいの（貨幣価値の）差があるのです。つまり、日本の年間収入が4

00万円だとしても、他の国では年間20万円というところもある訳ですね。そういう国の中から5ドル上げるだけでも大変なことになるので、なかなか上げられないのです。だからPRできないという話になってきた訳です。だったらもう少しPRする方にお金を使ったら良いじゃないかということで、LCIFとのジョイントで貯まったお金を少しでもPRに使おうじゃないかということ、また、ただPRや宣伝広告費にお金を使うだけではなくて、我々そのものがPRすれば良いじゃないかと。要するに自分たちはこういうことをやっているのだと周りの人に教えれば良いのです。我々がしっかりしたハートを持って「ライオンズというのは素晴らしい奉仕団体であって、自分の稼いだお金の中のほんの少しでも身を切って他の人に出してあげて助けているのだよ」という人道的支援なんだよ、ということ自分たちの口からPRしていく。ということも今後やっていかなくてはいけない、ということになった訳ですね。その為にはライオンズの「質」というものを高めなくてはいけないということになってくる訳です。ですから、入ってくる人にはしっかりした入会の時のライオンズの誓いの言葉をしっかり誓わせて、それに対して守れない人は辞めてもらっていいだろう、と敷居を高くするのではなくて、質を高める勉強をしていこうということになってきた訳です。パブリックの中でのPRというものをもっともっとやってみましょう、ということになり、そしてまたサービスももっと声を聞いて何が必要かということ聞いた中でサービスをしていく、自分よがりな昔からやってきたからということで踏襲することをやめる、というような新しい切替えをしていくというのも、このLCIフォワードの中に入っている訳です。ですからあの4つを見ていきますと、そういったものが全部書いてある訳です。そして、そういった素晴らしいライオンズだから素晴らしい人が沢山入ってきてくれるということで、このGMTに繋がり、会員増強に繋がっていく。そのサーキュレーションがぐるぐる回り始めると、良いスパイラルで回っていくだろうというのがこのLCIフォワードである訳です。ですから、いろんな意味で質を高めようということになっている訳です。ですから、このGLTの中でも、ガバナーになる人またはZCになる人たちの講習会というのをいろんなセミナーがいろんな所で開かれている訳ですね。中には全然そういった講習会も出てこないでただガバナーになっちゃったような人はいっぱいいる国はダメだと、しっかりとその辺の教育をしていって、一般市民の人にも尊敬されるような人がガバナーになるべきだ、というようなこともこのLCIフォワードに入って来ました。本日お集まりの皆さまは洗練された方々ばかりですが、中にはそういった国もある訳です。ですから、ガバナーになるにあたって非常にいろんなことで揉め事を起こして選挙のトラブルや選挙違反とかいろんなことをしながらの上がって行って、仲が割れてしまっているような国、例えば台湾やフィリピンなどもそういったことが残っている訳ですね。本部に訴訟で上がってくる場合は、しっかりと法律家が動いた中で、メンバーシップ剥奪といったことまでやっていくという風になっている訳です。例えばフィリピンは、本来ならばフィリピンからシカゴで一人の国際理事が出る筈だったのですけれども、そういった揉め事が多くて準地区でも揉めている所があるので、そのような地域から国際理事を出すのは良くないということで、3年程時間を掛けて勧告・忠告をしながらそれでも直らないものですから、私が国際会長だった時の権限で代わりにマレーシアの素晴らしい元ガバナーを国際会長指名ということで国際理事に引っ張り上げてまいりました。OSEALから3~4人出ている中でも、非常に素晴らしく伸びていく方ではないかと思えます。

国際本部・理事会の中では、第3副会長まで選出されることになりました。経緯としては、国際会長になられる方にはもっともっと勉強して国際会長になってもらわないと困るから、第3から始めて第

2、第1と3年間やってから国際会長にならないとダメだ、ということで、国際会長になる人ですらもっと素晴らしくなくてはダメだ、ということで第3から始まるということになった訳です。ですから、第3国際副会長候補者の資格審査を厳しくしよう、ということになりました。第3国際副会長になる人は、国際理事から上がってくる訳ですから、国際理事になる方の資格審査もしっかりしなくてはならないということで、全てが質というものを中心として今後の100年を、ちょうど1世紀経ちましたからここでしっかりとふんどの紐を締めるといった状態から始めようというのが今年の国際本部の動きであります。

そういった動きの中でも、“We Serve”が原点だということで、We Serve, We Serve ということになってきた訳です。非常に今、日本が期待されている中で、このGSTがいかにうまくスタートするかということ、皆さまの今後のアイデアやいろんな方法を考えながらこれを動かしていただきたいという風に思います。何故かということ、142万人になったこのライオンズはアメリカからスタートしましたが、そのアメリカ（の会員数）が今まで7会則地域のトップにいました。これが、ISSAME（第6会則地域）、要するにインドを中心とした中近東、アフリカを入れた一つの会則地域が33万人になって、会員数でアメリカを抜いたのです。そしてOSEALが第2番目になりました。そしてアメリカが第3番目の会則地域になってしまいました。こんなのは今まで初めてです。このデータが今年の2～3月頃でしょうか、アメリカが慌てて、これでは困るということで、何とかアメリカのメンバーシップを多くしてトップを取り返さなくてはならないということで、ボブ・コーリユー前国際会長が100年祭を一つの記念として、今年入会した人（の国際会費）を無料にしようという戦法を取った訳です。執行役員会を通して5～6月に入会した人は次の年の1年間は国際会費を無料にした訳です。私は大いに反対しました。質を高めると言いながら無料で入れたらどうなるのだろう？と。しかし、アメリカは背に腹は代えられないということで会費を無料にしました。ところが、日本では無料だから入る人なんていませんよね。OSEALは第2番目になったのですけれども、アメリカがその手法で現在第2番目になりました。きっと1年後には3万人位会員が落ちてしまうでしょうから、当然また第3位に落ちてOSEALが第2番目で行きます。インドもそういう手を使った為に、5～6万人という幽霊会員が多い所ですから、OSEALが一番正しいことを行っていることは全世界のメンバーはご存知な訳です。ISSAMEの中で、来年ラスベガスで多分、アフリカが第8会則地域として離脱して一つの会則地域に独立します。そうすると、33万人いるISSAMEが30万人になります。そうすると、自然と我々OSEALが1番になります。来年のラスベガスが非常に楽しみであります。

さて、そのOSEALの中で、何故メンバーシップが多くなったのかということ、実際日本の会員数は、私が執行役員になった時は10万人を切るかどうかという時に、FWTとして女性や家族会員の入会を勧め12万7千人まで行きました。27%増やした訳ですけれども、それが間違った情報で「パイロットプログラムだから3年で切れる」ということで皆辞めてしまって、今12万人を切る状態です。日本でこの状態なのにOSEALで増えている理由は、実は中国の影響なのです。まだ出来てから10年くらいの歴史しか無いのですけれども、今急速に増えていて4～5万人になろうとしています。その分がOSEALのメンバーシップをぐーんと上げている訳です。OSEALの中では日本の12万人がトップで、その次に韓国が8万人、中国が5万人、台湾が4万人という順位になっています。この中国が脅威でありまして、

中国と日本は政治的には決して仲が良い訳ではありませんが、ライオンズそのものは仲が良い訳です。しかし、中国では集めたお金を外に出せない訳ですね。中国は商売で外貨を集めても国外に持ち出しがなかなかできない、またたくさん人間が集まる時には政府に届けを出さなくてははいけない。ですから、中国のライオンズの上には共産党がいる訳です。それに全部届けを出しているようなフォーラム等をやらなくてははいけない。それでライオニズムが本当に分かるのだろうか？ということがありまして、日本がもっともっと頑張っ行って行かなくてはならない、日本がリードしてくれというのが全世界の考え方なのです。ですから、日本が12万人から13~15万人位に上がってきてくれると非常に助かるということ。そして LCIF でも日本がトップリーダーなのです。去年と一昨年は台湾に抜かれました。けれども、10年前の台湾の LCIF はほとんどゼロだった訳です。10年間で上がってきたのです。しかし、日本での今まで積み重なった LCIF 献金額は全世界でトップですから、総合的に見ると日本が断トツにトップなのです。そういう中で LCIF の頑張り、そして LCI の頑張り、またその中の質を良くすることに対して、日本人は勤勉であるからしっかりした "We Serve" を貫いてくれるだろうということで、今もの凄く注目が日本に集まっているというのが事実なのです。ですから、そういった目で、今日ここでいろんなディスカッションをしながら、今以上にもっともっと良いライオンズにしていただければ最高かな、と思います。日本のトップリーダーということは世界のトップリーダーだということを意識して、プライドを持ってやっていただければ素晴らしいライオンズライフが過ごせると思います。

ご静聴ありがとうございました。

4. GAT 組織について

国際理事・GAT 副リーダー

L.中村 泰久

- ・ GAT の枠組みについては、2016年10月のナッシュビル国際理事会に於いて提案され、2017年3月のアテネ国際理事会で決議され、6月のシカゴ国際理事会にて概要が決定された
- ・ GAT (グローバル・アクション・チーム) の中に、GMT・GLT・GST の3つがあり、日本に於いては日本のプログラムである FWT を入れて4つのチームでグループを組むことになった
- ・ 今期以降、4つのチームが相互に協力することによりプログラムを推進していただくことが大きな概要である
- ・ 特に、新設の GST は LCIF と協力をしていくが、国際協会 (LCI) と LCIF が共同でこのプログラムを推進していくという形になる
- ・ GAT の目標は、LCI フォワードで2020年までに世界2億人の方に奉仕を行うこと
- ・ 複合地区/準地区コーディネーターの役割については、今後各地区に配布をさせていただく予定

●各組織の目標／詳細説明

【GMT】

- ・ 会員増強
- ・ 退会率 5 %
- ・ 女性会員の増強 5 0 % (男女比率 5 0 : 5 0)
- ・ スペシャルティライオンズクラブの創設 (奉仕事業に特化したクラブ : 緊急災害専門のクラブ等 / 趣味に特化したクラブ : ゴルフ等、但しライオンズクラブなので奉仕事業も行う)

【GLT】

- ・ 携帯アプリ (MyLion) が 2 0 1 7 年 7 月から始動 (英語等 5 カ国語に対応。日本語は来期までに作成)
- ・ MyLion の活用により、旅行先の国や地域の奉仕活動に参加が可能。LCIF 献金も可能になる
- ・ CEP から CQI (クラブ活性化計画) にプログラム変更 (LCI フォワードを盛り込み簡素化された)
- ・ コーディネーター各位には、各地区において CQI のセミナーを開講いただきたい
- ・ クラブ E ブック (現在、和訳版を作成中) の活用促進 (各クラブ 3 役の役割を分かりやすく記載) 国際協会のウェブサイトより閲覧可能。3 役セミナーや会長会にてご活用いただきたい

【GST】

- ・ 奉仕事業を前期より 5 % 増加させる
- ・ LCI フォワードの 5 つのフレームワーク (糖尿病・小児がん・環境・飢餓・視力) を事業として実施
- ・ 1 0 0 周年レガシープロジェクトの推進
- ・ レオクラブの活用

●各地区の議長連絡協議会には以下、打診済み (国際理事会にて決議済み)

- ① GMT・GLT・GST・FWT に於いて、各複合地区議長が GAT のファシリテーターとなる
- ② 地区に於いては地区ガバナーが GAT のファシリテーターとなる
- ③ ・各クラブに於いては、LCIF コーディネーターだけでなく、GMT・GST コーディネーターも設置
 - ・今期に限っては、LCIF コーディネーターと GST コーディネーターは兼務可能
 - ・クラブ GAT コーディネーターはクラブ会長
 - ・GLT コーディネーターは必須ではないが、第 1 副会長が担当されるのが望ましい

●パワーポイント資料の説明

P2/P3 「2 0 1 6 - 1 7 年度の成功実績」

- ・ 過去最大の会員増強を達成 (1 4 9 万 9 9 8 7 人)
- ・ 年度末のクラブ数 : 4 7, 8 9 3 クラブ
- ・ 世界の会員純増数 : 4 4, 7 5 9 人
- ・ 日本は残念なことながら、期末で 3 7 クラブがキャンセル (解散)、会員 3, 4 5 6 名の純減

(58%の1,985名が家族会員)

- ・FWTの皆さまへの願いは、家族会員が実際にアクティビティに参加できる企画やプログラムを考え、広めていただき、家族会員の純増・退会防止に繋げていただきたい
- ・国際協会の目標会員数：150万人
- ・日本のGAT4つの両輪で皆さまにご活躍いただき、目標達成にご尽力を賜りたい

P4-7 省略

P8 「ウェルカムホーム・プログラム」

- ・今後、国際理事会で協議し、各会則地域で実施の可否を審議する（アメリカでは開始）
- ・元会員を対象に、クラブ・地区に所属せず「国際協会直結の会員」という意味合い

P9 「女性会員」

- ・現在、全会員の29%が女性会員 → 50%を目標にする
- ・国際協会も女性の力を重要視しており、奉仕の中での女性の役割が極めて大切と考えている
- ・FWTの皆さまにぜひお力をいただきたい

P10 省略

P11 「新ライオンズ国の開発」

- ・キューバ・ベトナム・ミャンマーの3か国が最重要国と決定された
- ・特にベトナムとミャンマーについては、日本の数クラブが支部やクラブを作るという動きがあり、日本は一本化しているんなご意見を聞きながら進めていく

P12-15 省略

P16-17 「退会 vs 入会」

- ・退会率 2012年度 12.9% → 2015年度 14.6%まで上昇。これを5%にするのが目標
- ・退会防止が会員増強に直結する
- ・GMT/GLT/GST/FWTが協力して目標達成にご尽力いただきたい

P18 「GAT組織図」

例えば GST は奉仕活動において、

- ・糖尿病については、各クラブ事業の献血活動に於いて糖尿病の尿検査キットを配布してお持ち帰りいただいたり、そこで検査を実施して陽性の方には通院のアドバイスをする等、糖尿病予防の一つの活動になる。またクラブメンバーのお医者様にご活躍いただき、献血活動の際に指先から採血を行い検査する方法もある。ぜひお考えいただきたい
- ・小児がんについては、患者様に直接奉仕というのは簡単ではない。そこで子供の飢餓とも関連するが、

ひとり親や生活困窮家庭の小児がんのお子様がいる家庭をフォローするのも小児がん対策の一つになるので、GSTにおいては様々お考えいただき、ぜひ各地区にご説明の上、進めていただきたい

【質疑応答】

Q：第1副地区ガバナーは主に GMT を担当し、第2副地区ガバナーは主に GLT を担当するように決められていたが、これは継続で良いのか？

A：シカゴ国際大会に於いて、複合地区会則／地区標準地区会則が変更になる。これは GAT の枠組みと LCIF コーディネーター含めた立ち位置が変更になった為。基本的にはご質問の通りで構わない。

Q：GST に関しては無いのか？

A：今回大きく変わったのが、地区ガバナーが GAT のファシリテーターということになっているので、各 GMT/GLT/GST/FWT のファシリテーターは地区ガバナーが行うことになる。個々に GMT/GLT は第1・第2副地区ガバナーでも構わない。GST については特に決められていないので、柔軟にご判断いただいても良い。

5. 各分科会 (GMT/GLT/FWT/GST/LCIF) 審議

◆複合地区の現状報告・年間計画・第一四半期の取り組み・その他

6. 各分科会ごとに、年間計画・第1四半期の取り組み等の発表

各エリアリーダー

◆【連絡事項】 ALLI (ライオンズ上級リーダーシップセミナー) について

発表者：L.中村 泰久 国際理事・GAT 副リーダー

- ・これまでは会則地域別に実施されてきた
- ・日本からは国際協会の予算の絡みもあり数十名が参加 (全準地区から出せない状況だった)
- ・不老 PID のご尽力を頂き、日本では単独開催が可能になった
- ・2017年10月13日～15日 (2泊3日) にて開催が決定
- ・準地区1名ずつ参加 (対象：第2副地区ガバナー)
- ・講師4名の選任

GMT： L.丸山 正芳 日本エリアリーダー (MD334)

GLT： L.濱野 雅司 MD330 コーディネーター

L.川野 浩史 MD335 コーディネーター

L.玉川 孝 MD337 コーディネーター

【GLT 分科会】

発表者：L.濱野 雅司 GLT 330MD コーディネーター

- ・不老 PID ご指導の下、城阪エリアリーダーより、GLT 目標/年間計画について詳しくお話を頂いた
- ・今期活動目標は、これからを担うリーダーを見出し、育て、リーダーとしての研修/教育を行うこと
- ・国際協会で決定した、2020年までに50万人以上の会員に研修の機会を提供することを柱に、今期、各複合/各準地区でセミナーを行っていく
- ・詳細については年間計画を既に作成し、議長連絡会経由で各複合地区に伝達いただき、準備していく
- ・次世代リーダーシップセミナーの開催（準地区：9～11月、複合地区：12月、全日本：4月）
- ・第1副地区ガバナー個別研修、第2副地区ガバナー上級リーダーシップセミナーの協力、準備の実施
- ・2018年、ラスベガスに於ける DGE（ガバナーエレクト）セミナーまでの計画を立案済み
- ・8複合コーディネーター会議（年4回）にて確認をしながら調整をしていく（10月/12月実施）
- ・メンバーの皆さまにライオンズを好きになっていただき、一般の方にはライオンズのファンになっていただく、これらを大きな希望として1年間頑張っていきたい

【GST 分科会】

発表者：L.中村 猛 GST 西日本エリアリーダー

- ・全国各クラブのアクティビティは多様化しており、伝統的な事業も多々ある中、時代に合わせて刷新すべきもの等、情報を集約しながら進めていくが、全日本として大きな枠組みの中で一本化したものを掲げていこう、ということを中心に話し合った
- ・糖尿病の啓発運動についてのアクティビティは、情報を集約して GST としての取り組みを地区/クラブへ浸透させていく
- ・子供の貧困と小児がんについては、医療の専門分野の意見を伺いながら、全国のクラブが実態としてどのようなアクティビティを行っているかを把握し、全日本として一本化した目標を定めていく
- ・11月5日が世界の「津波の日」になっている。和歌山県が発祥。災害地震国である日本において、津波から命を守るライフジャケットの寄贈運動を一つの大きなアクティビティとして、具体的な取り組みについて諸団体の経験・実績を踏まえて実行計画を立てていく
- ・障がい者施設の（子供を含めた）アクティビティをいかに全国展開に持って行くかという意見あり。複合地区の会議からまとめて地区に下ろせるように早急に会議を開かなくてはいけない。GST 会議を8月下旬に開催予定。チームワークをしっかり図って今後の発展に向けて皆で頑張っていく
- ・GST は、我々ライオンズのメインテーマ。素晴らしいものに発展させていくことが会員増強や質の向上に繋がるし、GMT・GLT・FWT と共に、また LCIF のタイアップが必要不可欠なのでチームワークをしっかり組んで GST に取り組んでまいりたい
- ・今期スタートだからこそ、早めに目標設定を行い、取り決めを行っていくことが重要

発表者：L.角田 裕一 GST 東日本エリアリーダー

- ・中村西日本エリアリーダーと相談を密に一緒に奉仕活動に取り組んでいく
- ・奉仕活動には実際にお金が掛かる為、LCIF に寄付するだけでなく少なくとも100万ドル以上は LCIF 基金を奉仕活動に活用したい。8複合で模索していく

【FWT 分科会】

発表者：L.長澤 千鶴子 FWT 日本エリアリーダー

- ・FWT は今期3年目。MD 正副コーディネーター16名の内、新メンバー8名に入っていた。
- ・奉仕活動については、子供の貧困に加えて糖尿病と小児がんを組み入れた。
- ・会員増強に於いては、リジョン/ゾーンに女性支部の創設、会員増強3万人を目標、8複合で割ると3,750人、これは不可能ではないという話が出た

発表者：L.高橋 かず子 FWT 西日本エリアリーダー（会員増強）

- ・3年目の集大成。特に支部作り/会員増強に力を入れる
- ・汗を流してクラブ訪問、皆と一緒に回って必要性を訴えていく
- ・月1回、第一金曜日にウェブ会議を実施する

発表者：L.小川 晶子 FWT 東日本エリアリーダー（奉仕活動）

- ・会員増強を成功させるには、まず我々が何をしているのか明確にする必要がある
- ・子供の貧困については、各地区の特性を生かした食糧支援ならびに教育支援、給食支援を2年半実施。これらは今後も継続していく。
- ・糖尿病に関しては、我々の一番得意とする料理の部門で、8複合が地域の郷土料理を生かした糖尿病食を考案し、ライオン誌に発表する。和食として海外に発信していくことを目標とする。会員増強の一環だが、ご主人が糖尿病の方の奥様は、家族会員ではなくてもご参加いただき、一緒に糖尿病食を勉強しながら、メンバーになっていただくと良い
- ・小児がんについては、ヘアードナーを各地区30名募集する。ヘアードネーションをしていただいたもので、小児がんの子供たちのかつらを作って贈呈したい。この目的の為に、他の委員会も同じ目標で動くので、ぜひヘアードネーションは女性に、寄付は男性にという風になると有り難い。一人でも多くの子供たちにウィッグ（かつら）が行き渡るように取り組んでいきたい

【LCIF 分科会】

発表者：L.榎本 舜治 LCIF 西日本エリアコーディネーター

- ・去る7月28～29日、名古屋にてLCIFセミナーを開催。28日は今後の進め方についてのヒアリングを実施。5つのフレームワーク等、今後LCIFは大きく変わってくる。
- ・糖尿病のプログラムについては、人道支援マッチングプログラムに変わり、その中に糖尿病が組み込まれ、地区で10万ドル、複合地区（2地区以上）で20万ドル交付可能。こういった枠組みもあるので、ぜひLCIF交付金をご活用いただきたい
- ・一般援助交付金についても、人道支援マッチングプログラムに変更予定。理事会決議後、皆さまに改めて通知する。LCIF献金の仕組みも含めて2018年7月から大きく変わる。
- ・LCIF献金については使い道が不明と言われることが多いが、去年の実績については、世界全体で3,800万ドルの献金を頂き、交付金合計は4,300万ドル。日本では約10%の400万ドルが交付金として使われた。内、熊本震災で150万ドル交付済み。
- ・LCIF献金の5カ年計画について、来年LCIF50周年を迎えるので、世界で5,000万ドル、OCEAL

で2,500万ドル、日本で1,000万ドルを目標に頑張っている。

- ・リーダーは、まず自ら LCIF 献金のご協力を頂けたら有り難い

発表者：L.大石 誠 LCIF 東日本エリアコーディネーター

- ・来年、LCIF は創設 50 周年を迎え、国際協会では、LCI フォワード 5 つの新しい枠組みができています
- ・GST と連携し、交付金の開拓と育成支援をしていくことで、社会への大きな貢献をすると共に、その経験を通じてメンバーの方々の LCIF 理解を深めたい
- ・糖尿病、小児がん、環境、食糧支援、視力 5 つの目標に伴い、交付金の分野や条件が変更になる予定
- ・今期より、各クラブに LCIF コーディネーター設置が義務づけられた。この組織を少しでも早く確立し、有効に機能させ、LCIF の啓発や献金獲得の活動を大きく進展させることができると思う
- ・山田實紘前 LCIF 理事長は、寄付については、従来の MJF を中心とした寄付に加え、誰でもが献金しやすい額の寄付をすべての会員に協力をお願いする、という方針を仰っている。引き続き徹底していくためには、各クラブコーディネーター設置が非常に有効であると考えている
- ・LCIF の財政状態は、交付金が約 45 億円、寄付が 40 億円。ここ近年、交付金の方が上回っている状態。何とかしなくてはいけない状況に来ている。ぜひ多くのメンバーの LCIF に対するご理解、ご支援を頂きながら、LCIF の目的を推進していきたい。ご協力を宜しくお願いしたい

【GMT 分科会】

発表者：L.丸山 正芳 GMT 日本エリアリーダー

- ・2015～2016 年度は 12,000 人 入会、13,000 人 退会。
- ・2016～2017 年度は 9,000 人 入会、12,000 人 退会。
- ・一言「入会しませんか？」という原点に立ち返りたい
- ・成功した地域を見ると、35 地区の内 5 地区は会員増という結果がある。地域の特性はあるにせよ、ガバナーやクラブが一丸となってやっつけば必ず会員がプラスになると確信している
- ・各複合地区／準地区コーディネーターの皆さまと共に頑張っていきたい

7. 講評

LCIF 国際理事・LCIF 会則地域副リーダー

L.栢森 新治

GAT 日本副リーダー・元国際理事

L.不老 安正

元国際会長・国際理事会アポインTEE

LCIF 国際理事会執行委員会アポインTEE

LCIF 国際理事

L.山田 實紘

ライオン誌日本語版委員会 委員長

L.佐々木 忠康

8. 閉会の挨拶

FWT 日本エリアリーダー

L.長澤 千鶴子